

平成 28 年 5 月 31 日	病害虫発生予報 6 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

平成 28 年度茨城県農薬危害防止運動が始まります (6/15～9/14)
～薬剤散布時には周辺作物等へ飛散しないよう十分注意しましょう～

＜ 目 次 ＞

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
水稲：縞葉枯病（ヒメトビウンカ）	1
水稲いもち病の防除について	1
水稲：ニカメイガ	2
ナシ：黒星病	2
ナシ：ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）	3
【防除所レポート】：ナシヒメシンクイの防除適期の予測	3
果樹共通：チャバネアオカメムシ	4
【防除所レポート】：サクラにおけるチャバネアオカメムシの発生状況	4
半促成ピーマン：斑点病	5
夏ネギ：ネギアザミウマ	5
【その他の病害虫】	
水稲，ブドウ，半促成ピーマン，夏ネギ，共通害虫	6
【防除所レポート】小麦の赤かび病の発生状況と今後の対策について	7
施設野菜の栽培終了後の管理について	7
II. 今月の気象予報 8	
最新の農薬登録内容は，（独）農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」（ http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm ）で確認することができます。	
詳しくは，病害虫防除所へお問い合わせ下さい。 茨城県病害虫防除所 Tel：029-227-2445 予報内容は，ホームページでも詳しくご覧いただけます。 ホームページアドレス http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/ フェロモントラップデータ随時更新中	

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. 縞葉枯病（ヒメトビウンカ）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
早い	多い	県西地域, 県南の一部地域

[予報の根拠]

- ① 有効積算温度から計算した筑西市の水田におけるヒメトビウンカ第二世代幼虫の孵化最盛期は、平年より早いと予測される。
- ② 3月に採集したヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率は、県西地域の10地点中9地点で、県南地域の2地点中2地点で10%以上の高い値である。

(平成28年3月22日発表 病害虫発生予察注意報第3号参照)

[防除上注意すべき事項]

- ① 昨年、本病の発生が認められた地域で、本年、ウンカ類に登録のある薬剤で育苗箱施薬を行わなかった水田では、6月第5半旬（21～25日頃）にヒメトビウンカの本田防除を行う。

水稻のいもち病の防除について

[現在の状況]

5月下旬現在、置苗での本病の発生は認められない。

[発生好適条件]

気温20～25℃で、雨や霧などが続いてイネの葉が長時間ぬれるような条件のとき。一般的に6月の高温多湿、7～8月の低温多雨は発生を助長する。

[防除上注意すべき事項]

- ① 置苗は本病の発生源となるため、速やかに本田から持ち出して埋める等適切に処分する。
- ② 常発地で、育苗箱施用剤を使用していない水田では、特に発生に注意する。
- ③ 本病は例年6月下旬から発生する。粒剤による本田防除の適期は初発前～初発時なので、適期を逃さずに防除する。
- ④ 粒剤の施用時期と中干しの時期が重なる場合には、中干し後に必ず湛水状態にしてから粒剤を散布する。

※防除所ホームページで6月よりBLASTAM（アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム）によるいもち病の感染好適日の出現状況を随時更新する予定です。ご参照ください。

(水稲 続き)

2. ニカメイガ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在、フェロモントラップへの誘殺時期は龍ヶ崎市、筑西市で平年より早い。また、総誘殺数は龍ヶ崎市、筑西市で平年より多い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発生が目立つ地域では第一世代幼虫を対象に薬剤防除を6月上旬に実施する。

ナ シ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、果実における発病率(本年値0.2%、平年値0.3%)、発生地点率(本年値35%、平年値28%)ともに平年並である。
- ② 5月下旬現在、県予察圃(笠間市)における発病果率は平年よりやや高い(本年値2.7%、平年値1.9%)。
- ③ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 効果的に防除するためには、二次伝染源の除去が重要であり、発病した葉および果実は見つけ次第除去し、園外に持ち出して土中深く埋める等適切に処分する。
- ② 薬剤散布は、発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は、10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等、薬液のかかりにくい部分に対しては、手散布等により補正散布を行う。

(ナシ 続き)

2. ナシヒメシンクイ（第二世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並～やや早い	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，第一世代成虫の発生時期は，越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から，平年並～やや早いと予測できる。
- ② 5月下旬現在，フェロモントラップへの越冬世代成虫の誘殺数は，地区予察圃(かすみがうら市)で平年より多く，地区予察圃(小美玉市)および土浦市で平年並，県予察圃(笠間市)および地区予察圃(笠間市)で平年よりやや少ない。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後，第二世代幼虫が発生するため，平成28年版露地赤ナシ無袋栽培病害虫参考防除例を参考に適期防除に努める。防除適期については，下記の防除所レポートを参照する。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，葉液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第二世代幼虫を対象とした防除適期は，**第一世代成虫の誘殺数がピークに達した日の7～9日後**である。
- ② 各地点の第一世代成虫の誘殺最盛期は，越冬世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と有効積算温度から予測した。
- ③ 表中のかすみがうら市，土浦市，筑西市(旧下館市)については，今後，病害虫防除所ホームページで情報を随時更新するので参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第二世代幼虫の予測防除適期

地点	第二世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
笠間市(旧友部町)	6月20日	～	6月24日
笠間市(旧岩間町)	6月17日	～	6月20日
小美玉市	6月20日	～	6月24日
石岡市	6月15日	～	6月17日
かすみがうら市	6月16日	～	6月20日
土浦市	6月16日	～	6月20日
筑西市(旧下館市)	6月16日	～	6月19日
筑西市(旧関城町)	6月16日	～	6月19日

1) 予測した第一世代成虫の誘殺ピークの7～9日後とした(5月31日現在)。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月第5半旬現在、果樹園に設置した予察灯への誘殺数は、県予察圃(笠間市)で平年よりやや多く、かすみがうら市で平年並である。
- ② 5月下旬現在、サクラ果実における吸汁果率は平年より高い(本年値 96.7%、平年値 42.0%)。(下記の防除所レポート参照)
- ③ 本年2月上旬の越冬量調査における成虫の越冬数は平年よりやや多く(本年値 4.8頭、平年値 3.2頭)、越冬地点率は平年並(本年値 62%、平年値 43%)である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 夜温の上昇に伴い活動が盛んになり、果樹園へも飛来が増加するので注意する。果樹園内でカメムシ類を確認した場合には、活動が鈍い早朝に薬剤防除を行う。
- ② 多目的防災網(目合い6mmまたは9mmクロス以下)はカメムシ類の園内への侵入を防ぐため、被害軽減に有効である。

防除所レポート [サクラにおけるチャバネアオカメムシの発生状況]

- ① サクラ樹上での生息数は、平年より少ない(図)。
- ② 吸汁されたサクラ果実の割合は、5月下旬で96.7%と平年より高く、多くのサクラ果実はカメムシ類に吸汁されている。
- ③ 本年は平均気温が高く、サクラ果実の落果が早い。チャバネアオカメムシは既に他の植物に移動しており、今後、餌を求めて果樹園へ飛来する可能性があるので注意する。

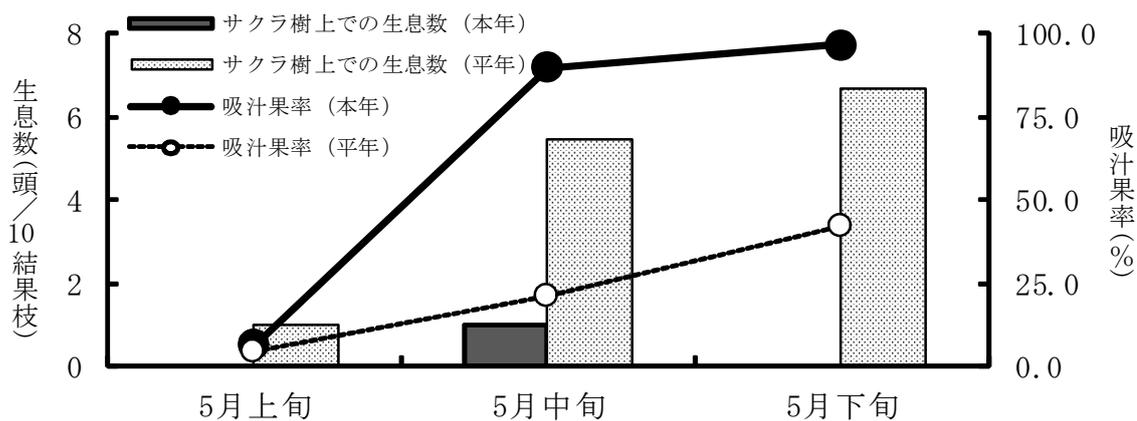


図 サクラにおけるチャバネアオカメムシの生息数と吸汁果率

半促成ピーマン

1. 斑点病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 5月中旬現在、発病度※（本年値 1.8，平年値 0.1），発生地点率（本年値 50%，平年値 6%）ともに平年より高い。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 多湿の場合に発生しやすいので，整枝，換気等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底する。
- ③ 罹病部はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して適切に処分する。
- ④ 薬剤は，薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，FRAC コードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑤ 天敵を導入している場合は，影響が少ない薬剤を選択する。

夏ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 5月下旬現在，被害度※は平年よりやや高く（本年値 37.9，平年値 23.7），発生地点率は平年並（本年値 100%，平年値 98%）である。

※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 今後は気温の上昇に伴って増殖が速くなるので，発生圃場では速やかに防除を実施する。
- ② 雑草にも寄生するため，圃場周辺の除草を徹底する。
- ③ 薬剤散布の際は必要に応じて展着剤を加用し丁寧にを行う。また，収穫前日数に十分注意する。
- ④ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードもしくは系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	イネドロオイムシ	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。曇雨天が続くと発生が助長されるので注意する。幼虫の発生が多く, 食害が目立つ場合は防除を行う。
	イネミズゾウムシ	発生量: やや多い	5月下旬現在, 平年よりやや多い発生である。イネの初期生育が遅い水田, 育苗箱施用剤を使用していない水田では発生に注意する。
ブドウ	灰色かび病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
	べと病		
半促成ピーマン	うどんこ病	発生量: 平年並	5月中旬現在, 平年並の発生である。
	アザミウマ類	発生量: やや多い	5月中旬現在, 平年よりやや多い発生である。
	ハダニ類		
夏ネギ	さび病	発生量: 平年並～やや多い	5月下旬現在, 平年並～やや多い発生である。
	べと病	発生量: 平年並	5月下旬現在, 平年並の発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量: やや多い	5月下旬現在, フェロモントラップへの総誘殺数は, 龍ケ崎市, 土浦市で平年よりやや多く, 筑西市で平年並である。
	ハスモンヨトウ	発生量: やや多い	5月下旬現在, フェロモントラップへの総誘殺数は, 龍ケ崎市で平年より多く, 土浦市, 筑西市で平年よりやや多く, 銚田市で平年並である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 5月28日から6月27日)

気象庁(5月26日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	20	40	40
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 5月28日(土曜日)から6月3日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%

<2週目の予報> 6月4日(土曜日)から6月10日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

<3週目から4週目の予報> 6月11日(土曜日)から6月24日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる作用機構分類※(FRACコード、IRACコード)の薬剤を用いてローテーション散布しましょう。

※作用機構分類については、病害虫発生予報5月号(平成28年4月28日発表)の防除所レポート参照